

令和7年度 第3回富士宮市総合戦略有識者会議 議事録

日 時：令和8年3月19日（木）午前10時00分～午前11時50分

場 所：市役所7階 111会議室

出席者：

（委 員）：赤池英明、土井康志、田中正男、飯室憲一、伊藤洋子、佐藤真知子、加納永子、定松文、田中心也（欠席：佐野禎威）

（市）：企画部長、企画戦略課長、企画調整係長、企画戦略課職員

次 第：

1 開会

2 挨拶

3 議事

（1）次期総合戦略について

（2）令和8年度地方創生関連事業について

（3）地域未来交付金について

4 閉会

議事（1）次期総合戦略について

※質疑・意見等なし

議事（2）令和8年度地方創生関連事業について

〈赤池委員〉少子化や出生数の低下が進む一方、小中学校体育館へのエアコン設置とある。必要な事業と考えている反面、空き教室や小規模校の統廃合なども踏まえ長期的な視点で検討が必要。

〈企画部長〉小中学校体育館のエアコン設置は、3年かけて全校に設置予定。体育館は、地域のシンボリックなもので、避難場所として指定されていたり、平時も地域交流の場として重要な施設となり得ることから、地域の人と協議して活用方法を検討していくべきだと考えている。

〈赤池委員〉小中学校の統合は、市の事業を進めていくなかで、避けては通れない課題と思う。現状を知りたい。

〈企画部長〉正式には、まだ決まっていない。複式学級の是非や保護者との協議を行う中で、再編形態はこれから議論を進めていくと思う。

〈土井委員〉大学や専門学校誘致は行ったことはあるか。他県から学生が来れば、人口・経済効果があるのでは。上下水道設備インフラの老朽化についての状況も聞きたい。

〈企画戦略課長〉過去に検討したが、現在は誘致していない。大学は立地条件が重要で、地方誘致は難しい。大学や専門学校だけではなく、学生と関わるというような形を柔軟に考えて、違う形で若者を集める方法もあると考えている。

上水道は、布設替えを粛々と進め、下水道は、国から、市町で耐震化計画をたてるように言われているため、それに応じて、点検を含めて、急ピッチで整備を進めている。

〈企画部長〉富士宮市は面積が広く、インフラ施設面積も大きい、ストックマネジメント計画を立て事業を進めており、今のところ大きな事故は起きていない。

〈田中正委員〉市と一緒に考えていきたいと思う点が、UIJ ターン。静岡県全体の問題として、男性は戻ってくるが、女性がなかなか戻らないというデータが出ている。働く場所や女性が活躍できる場などを増やしていかないと今の割合で女性が流出していったら、将来的に高齢者だけのまちになってしまう。

〈企画部長〉今回の市議会でも多くの議員から質問があった。新聞にも日本人のみであるが、静岡県の女性の転出超過が全国一という記事が出ていた。理由の一つは、関東圏、中京圏に挟まれていること。女性の働ける職種や選択肢を増やす必要があると思う。富士宮市は製造業が多く、男性が選ぶような事業所が多い。女性がやりがいを感じるような職種を増やし、あとはキャリアを積んだ後に帰ってきやすい環境づくりをしていかなければならない。

〈飯室委員〉子育て支援とともに、高齢者支援、交通整備も充実させてほしい。先ほど学校再編の話もあったが、通学範囲が広くなれば、バスタクシーなどの交通手段の整備も必要。高齢者にとってもそれは有効である。あと高校生の多くが進学し、一度市外へ出ていき、なかなか戻ってこない。また、高校生の就職も確保できていないため、しっかり帰ってきて、地元の企業に就職してもらい、そのようなことが増えればいいと思う。

〈企画戦略課長〉高齢者支援としては、つながりや生きがいを感じられる施策を行う。交通網の話は、すべての人にかかわってくる課題と認識している。また、高校生の就職については、中小企業の経営者の方と話をすると、やはり高校生が就職するときの仕組みというものも検討したいと話している。市としても戻ってきてもらいたいし、バランスよく働いてほしいと考えている。

〈企画部長〉高齢者は今後も間違いなく増えていく中で、生きがいを持って元気に生活していく、それに向けての政策をこれからも作っていく。また、交通の問題は正直一番ネックで、い

ろいろ検証してはいるが、宮タクがもう少し使い勝手が良くなないと、なかなか普及していくのが難しいと思う。公共交通は大きな課題として捉えてるため、引き続きしっかりと住民の方も含め、検討していきたい。

〈伊藤委員〉結婚新生活支援事業は所得制限がある。富士市は所得制限がない。隣の自治体で違いがあることに違和感がある。また、出産できる場所が、市立病院しかない。やはり単体で出産できる病院があるといいと思う。障がい者の施策が入ってきたのは進んだと思う。森林環境整備事業についても聞きたい。宮バスがなくなるという話を聞いたがどうなのか。

〈企画戦略課長〉結婚支援金については、富士宮市では結婚したからおめでとうではなく、その結婚を促すための補助金という位置づけになってる。所得が少し少ないために結婚をためらってる方がいるのであれば、そこを後押しするという制度になっている。また、出産できる施設をもう一つ公的に、ということはなかなか難しいと思うが、市立病院をリニューアルして、見た目も綺麗になっている。障がいの事業は、聾者の映画を上映するというもの。障がい者支援事業は多く実施しているが、この地方創生関連事業としてピックアップすることが今までは少なかった。森林整備については、森林環境譲与税を使って森林整備を積極的に行っている。宮バスについては、交通体系を見直さなければいけないという話が先行して、間違った情報が流れてしまったのかと思う。まだ決まったことではない。

〈企画部長〉来年度から、新たな公共交通計画が3年間スタートする。宮バスは、路線によってはよく利用されているものもある。そういう路線はこれからも残ると思う。いつ見ても人が乗っていないような路線については、宮タクの活用なども含め検討していくことも出てくると思う。

〈佐藤委員〉PTA や自治会の活動価値をデジタル化して見える化すると良いと思う。AI や SNS を駆使し、情報発信していくと良い。行政が旗振り役となり、学校や地域の活動を戦略的に見える化し、そのプロセスもわかりやすく市民に伝えてほしい。

〈企画部長〉実行していることがなかなか周りに伝わっていない。市の事業も自治会の活動もPTA の活動もそうだと思う。SNS だけではなく、紙媒体なども使い、戦略的に情報発信する必要がある。

〈加納委員〉こどもの居場所づくり事業や部活動地域移行は進めるべきだが、裕福層だけでなく誰でも参加できる環境が必要と感じる。行政がそれを踏まえて進めてほしい。

〈企画戦略課長〉市内に20団体くらいこどもの居場所作りの団体がある。富士宮市では、手弁当でやっていただいていた方が多いと思うため、そこに市が補助していくという事業をはじめると。

〈企画部長〉コロナ後どんどん増えていった。こどもだけでなく、高齢者であるとか、地域の

交流場所ともなっており、これからもっと発展していくと思う。

〈企画戦略課長〉部活動については、土日の活動を先行して外部に委託するような形をとっている。ただ移行は非常に難しく、色々な見方がある。方針をしっかりと共有していくことが大事。

〈定松委員〉物価上昇時は、こちらの事業に予算を優先的に措置するようなことはあるか。女性の人口減少対策にはまずは雇用、それしかない。人口減少を止めるためには、雇用環境を整えるしかない。大学は少子化で厳しい。日大の研修所があってもいつ撤退するか分からない。今後は、各大学の就職課などの窓口、富士宮市の雇用情報などを積極的に情報提供することが重要だと思う。戻ってくることがなければこちらが出て呼びかけるということ。うちの大学でもジョブフェアをやった。空き教室問題も難しい。蘇らせる事業をし、維持ではなく、次の利用を考えながらいけばいい。地域包括推進事業については、移動の格差への対応も必要。

〈企画部長〉社会情勢が厳しい中、物価等が上昇した場合は、補正予算を組んだり、翌年度に繰り越したりしている。この傾向はしばらく続くことを想定している。

ここに載せた事業は、基本的に何としてでも進めていく事業。また、人口減少については、女性のニーズを把握しつつ進める必要がある。

〈田中心委員〉デジタル分野に関しての提案をしたい。デジタル住民票を発行して、そこに関わる人を増やす移住という、なかなか重たく感じるが、デジタルの力を活用してライトにかかわる人を増やしていくことがいいと思う。また、交付金の活用も重要と思う。最先端のフードテックのまちというのもいいと思う。そういうブランディングをすることで、興味のある若者や企業が集まってくると思う。行政だけでは難しければ、民間の力も使い進めてみてほしい。

〈企画戦略課長〉関係人口創出事業は、令和 8 年度にも実施予定。8 年度は分析するための調査費が計上されている。最先端フードテックのブランディングも、富士宮市は食のまちであるため、新たな切り口や視点が必要であると思う。

〈企画部長〉現在の本市の関係人口には、返礼品目的の人もある一定数いると思う。そうではなく、実際にこちらに来て何かをしてくれる人、いろんな体験をしに来てくれるつながりが強い人を増やしていきたいと思う。そういう人たちに、地域課題解決に協力してもらったり、そういう濃い関係人口を増やしていくというのが、国が進めるふるさと住民制度。

議事（３）地域未来交付金について

※質疑・意見等なし

以上